

遺児家庭の平均年間所得 135万7千円

昨年より8.2%(12.2万円)減 物価高が追い打ち

あしなが高校奨学金申請者数過去最多も、半数以上を採用できず

2023年度あしなが高校奨学金申請書(予約募集)を集計した結果、保護者の平均年間所得は135万7,403円で、前年の147万9132円から8.23%、12万1,729円も下がっていることが分かりました。そこに昨今の物価高で、遺児家庭の窮状はますます深まっています。

在学募集も含めた2023年度の高校奨学金申請者数は、1988年制度発足以来最多の2,629人でした。その背景には生活苦の深刻化と、本年度から高校奨学金制度を貸与・給付一体型から全額給付型に変更したことにあります。また、申請者の親の所得の平均額が減少していることから、これまでは将来の返還が不安で「借り控え」していた低所得者層が、控えることなしに申請してきたのではないかと考えられます。

しかしながら、本会は、「全額給付型」によって支援を手厚くしたものの、申請者の予想以上の急増と本会の資金難により、申請者の55.6%(1461人)を不採用にせざるを得ませんでした。本会の使命を十分に果たせず、まさに痛恨の極みです。あしなが大学奨学生が中心となって10月21日から全国で始まる「あしなが学生募金」では、「一人でも多くの遺児に奨学金を届けよう!」と訴えます。

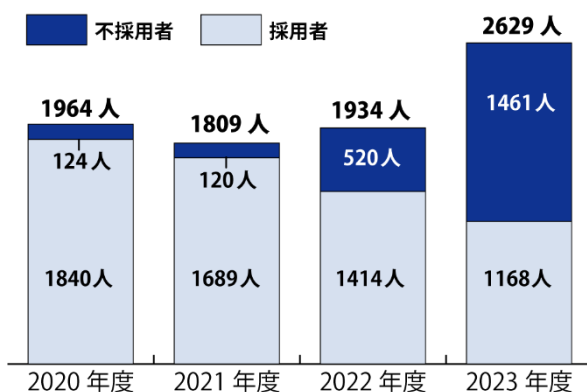
【本日の発表者】

- 玉井義臣(本会会長)
- 村田治(本会会長代行・前関西学院大学学長)
- 大隅有紗(あしなが学生募金事務局首都圏エリアマネージャー・慶応大3年・本会大学奨学生)

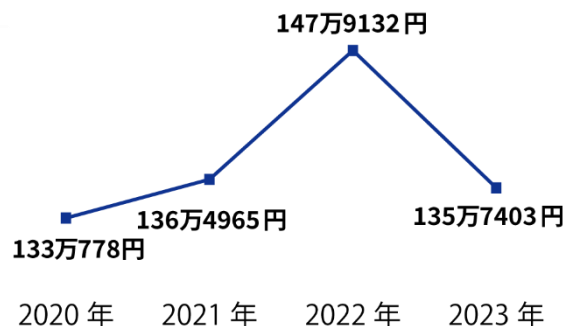
【配布資料】

- 本紙
- 高校奨学金申請者の声(申請理由)抜粋
- 第106回あしなが学生募金について
- あしなが育英会団体紹介パンフレット
- あしなが育英会2022年度活動報告

あしなが高校奨学金 申請数・採用数の推移



遺児家庭 保護者の平均年間所得の推移



2023年10月19日
あしなが育英会記者発表資料

高校奨学金申請書の声（申請理由）抜粋

福島県 高1男子 病気死亡 保護者：祖父母

父母が離婚後、親権者だった母が脳出血のため死亡し、離婚前から、母の実家で同居していた祖父が、未成年後見人になり養護しております。祖父が平成29年3月頃から急にリュウマチが、発症し、仕事ができない状態になり無職となりました。現在は、年金収入だけになり、食道がんや大腸がんになり、食道は陽子線治療を受けましたが、定期的に検査を受け、医療費がかかり年金だけの生活は大変ですので奨学金の申込みいたします。

京都府 高1男子 病気障がい 保護者：母

父のがん治療のため入院中、休職により無給の状態。母もうつ病によりパートに出られない。医療費も高額なため、長男の学費が払えるか心配。現在、父の入院先も遠方の病院のため交通費もかさんでいる。長男も障がいがありますが本人が希望していきいたいといった高校のため勉学に励んでもらいたい。

大阪府 高1女子 保護者：母親（障がい）

両親が離婚して3年になります。精神疾患を患っている母は、仕事できません。姉がアルバイトをして家計を助けてくれていますが、今年から塾代助成費や児童手当などがもらえなくなった他、父からの援助もない中、物価高騰の影響もあって、益々生活が圧迫されています。私には、大学へ進学して医療の勉強をするという夢がありますが、そのために必要な資金がありません。私もアルバイトを始める予定ですが、勉強に注ぐ時間を確保し、夢の実現に向けて頑張りたいと思っておりますので、ご支援いただけますと幸いです。

※2023年度高校奨学生申請書（予約及び在学採用）の自由記述欄より抜粋。

※保護者ご本人の許可がいただけたものを掲載しております。

あしなが学生募金 一人でも多くの遺児に奨学金を届けよう！

あしなが育英会の大学奨学生を中心に組織されるあしなが学生募金事務局は、10月21日(土)から遺児の奨学金を募る「第106回あしなが学生募金」を、全国約150か所の街頭・駅頭で実施します。

奨学金申請者が急増し、奨学金を受けることができない遺児が増えている現状を踏まえ、「一人でも多くの遺児に奨学金を届けよう」と訴えます。



【実施要項】

<主催>あしなが学生募金事務局(事務局長:谷口和花菜・大阪教育大3年)

<協力>一般財団法人あしなが育英会(会長:玉井 義臣)

<日時>10月21日(土)、22日(日)、28日(土)、29日(日) 各日12~18時

※一部拠点は日程・時間の短縮あり

<場所>全国47都道府県の主要駅など約150か所で実施(あしなが学生募金ウェブサイトに掲載)

都内では新宿駅(西口)、池袋駅(東口)、品川駅(高輪口)、上野駅(中央改札口)、八王子駅(南口)など22か所で実施

<募金使途>2分の1を日本国内の病気・災害・自死遺児と親に障がいがある子どもの奨学金、

2分の1をサブサハラ・アフリカ49か国の遺児の高等教育支援費として、一般財団法人あしなが育英会に寄付

【オープニングセレモニー】

秋の街頭募金の始まりを宣言する「オープニングセレモニー」を実施します。

<日時>10月19日(水)16時30分~17時

<場所>JR新宿駅 南口前

<参加者>あしなが学生募金事務局 首都圏エリアマネージャー 大隅有紗(慶応大3年)、ほか事務局メンバー約10人

あしなが学生募金ってどんな活動？

● 半世紀で遺児11万人の「進学の実夢」を後押ししてきました

あしなが学生募金は1970年に交通事故で親を亡くした子どもたちを支援するために始まりました。以来53年間、「一人でも多くの遺児に奨学金を届けるために」と毎年4月と10月に遺児学生らが街頭に立ち、支援を呼びかけてきました。時代とともに支援対象を広げ、現在では病気・災害・自死遺児と親に障がいがある子ども、そしてサブサハラ・アフリカの遺児を支援しています。

● 遺児学生たちが自らのストーリーや思いを街頭で訴える“アツい”活動です

学生募金の大きな特徴として「呼びかけ」があります。ただ「あしなが学生募金にご協力をお願いします」と呼びかけるだけでなく、募金に立つ学生が自分の言葉で、遺児の現状や奨学金の必要性を全力で訴えます。

「私は遺児で、お金がないために一度は進学を諦めかけましたが、あしなが奨学金のおかげで進学することが出来ました。後輩遺児たちにも進学を諦めてほしくありません」。この「生の言葉」が街頭の人々の心を動かし、活動は繋がりを広げてきました。